

交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入

名古屋市地域公共交通計画に施策「交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入」を掲げており、制度の構築を進めてまいります。これにあたっては、西福田学区における実証実験をモデルケースとして、支援のあり方を検討します。

西福田学区における実証実験

- ・名古屋市地域公共交通計画における公共交通空白地でありかつ高齢化が深刻
- ・地域が団体を立ち上げ、移動に関するアンケート調査を行うなど地域が主体となり交通課題の解決に向けた取り組みを実施
- ⇒地域主体の取り組みとして、新たな移動手段の導入に向けて意欲の高い、**西福田学区**において実証実験を実施

新たな移動手段

- ・地域が行った移動に関するアンケートから実態とニーズを把握

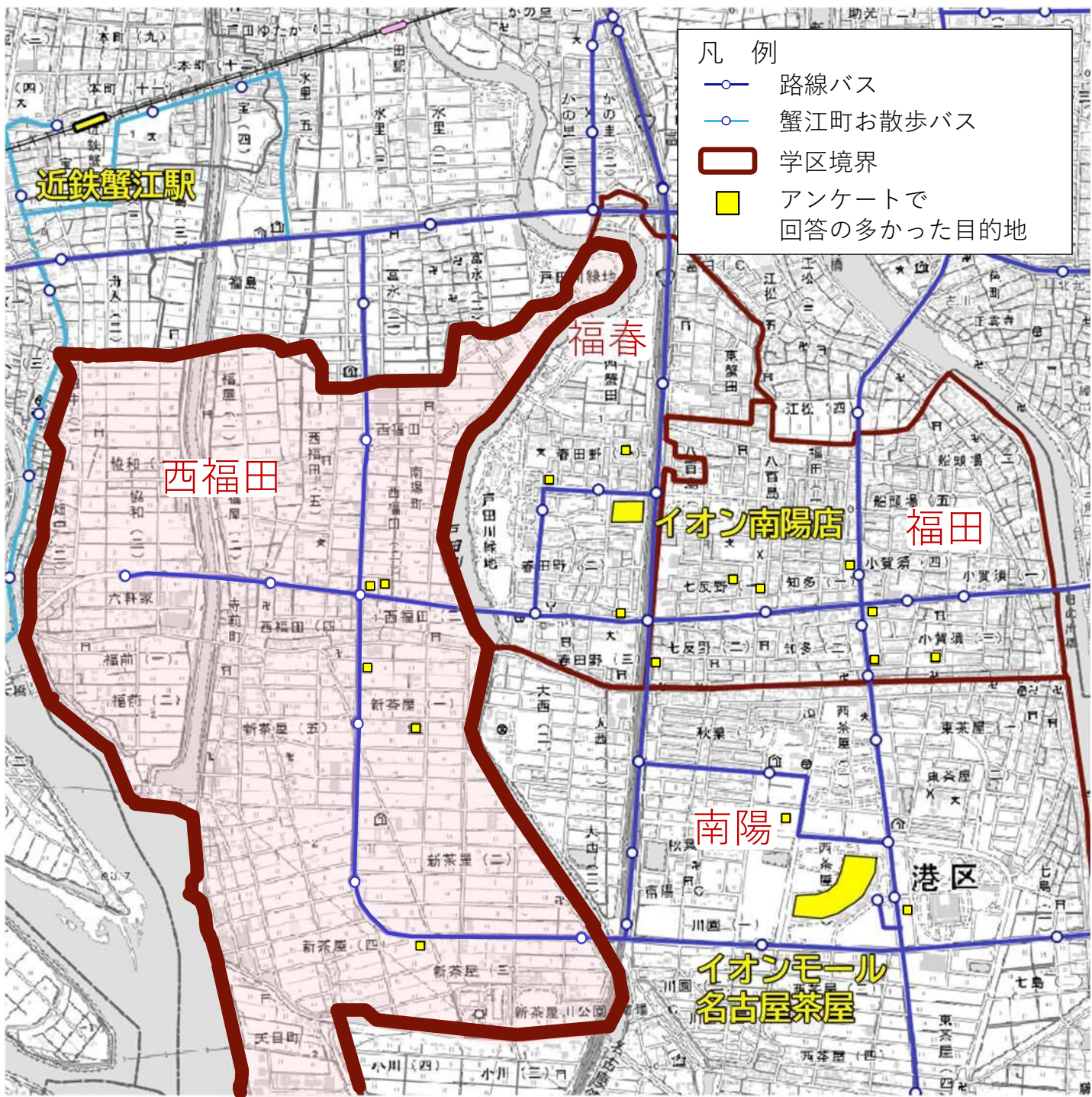
アンケート結果（別紙参照）

- ①近鉄蟹江駅、学区内バス停、商業施設、病院への移動が多い
- ②商業施設、病院といった生活施設は日中に近鉄蟹江駅、学区内バス停といった公共交通機関は早朝や夜間における移動が多い
- ③自動車・バイク、自動車送迎による移動が多い
- ⇔目的地は学区内外の商業施設・病院福祉施設・交通施設と様々

- ⇒様々な移動需要に応じることができる新たな移動手段として、**デマンド交通**の導入を検討
- ⇒導入した新たな移動手段（デマンド交通）が地域の課題解決に資するのか、その有用性を検証

実証実験においては、地域の多様なニーズを把握・整理し、持続可能な運行にする必要があるため、名古屋大学（未来社会創造機構）・名鉄（株）・名鉄タクシーHD（株）との**共創**により各分野の知見を活用して行います。

デマンド交通の特性を踏まえ、既存公共交通とのバランスを考慮した運行内容となるよう関係者調整を行い、持続可能な交通を目指します。



想定スケジュール

R6年度			
6月～8月	9月～10月	11月～1月	2月～3月
・運行内容の検討 ・運行計画の作成 ・関係者調整	・手続き関係 道路運送法第21条運行について ①地域公共交通部会での承認 ②運行事業者による運輸局への申請	・実証実験 ・利用者アンケート	・効果検証、課題整理